



こんにちは！ジェフです。私はこの前、私と同じアメリカ出身の人によって色々な話をしましたが、あることで意気投合しました。アメリカの祝日の中で最も恋しいのは、感謝祭～サンクスギビング～ということでした。意外ですか？日本人はアメリカ人がクリスマス을大事にしているイメージがあると思います。間違いなく大抵のアメリカ人はクリスマスが大好きです。家族と集って食事をしたり、プレゼントを交換したり、クリスマスの伝統的な過ごし方はやはりアメリカ人の心に深く刻まれています。ならばどうして感謝祭の方が恋しいのでしょうか？それは、感謝祭は日本には祝うことができないからです。

クリスマスも感謝祭も家族を大事にする時期ですが、スケールが全然ちがうのです。クリスマスは父、母、子供のユニットで祝います。一方感謝祭は大家族で祝うのです。祖父母、叔父、叔母、甥、姪、いとこ、一族みんなが集まって、食べる。たくさん食べる。長時間食べる。色々食べる。七面鳥を食べる。スタッフィングを食べる。マッシュポテトを食べる。スイートポテトを食べる。クランベリーソースを食べる。野菜を食べる。パンを食べる。肉を食べる。食べる。食べる。食べる！

わかったかな？感謝祭の祝い方は、ひたすら食べることなんですよ！いやー、この記事を書くとおなかへちゃってきちゃう～。さて、この爆食の祝日が一体どうやってできたのかを紹介しましょう。



1620年、イギリスでの宗教的な迫害から逃れるために、ピルグリムとよばれたキリスト教の信者130人は、「新たな世界」(The New World)、即ちアメリカへと旅立った。彼らはメイフラワーというわずか30メートルの船に2か月間も乗った末、ようやく目的地、現在のマサチューセッツ州に着いた。しかし、それはアメリカでの試練の始まりだった。到着した彼らを迎えたのはアメリカ北部の激しい冬だった。男性たちは先に船を降りて街をつくりはじめた。その間、女性や子供、そして病弱な人たちは船に残った。結局、春がくるまでに45人のピルグリムは亡くなっていた。

翌年3月、アメリカンインディアンの一人在ピルグリムの町に入り、大声で「ようこそ、イギリス人たちよ！」と叫んだ。彼はすでにイギリス人の魚売りや毛皮商から英語を習っていたので、ピルグリムとインディアンの通訳をかってでた。インディアンのリーダーと平和条約を結び、インディアンはピルグリムたちにアメリカでの生活に必要な知識を教えた。例えば、魚の食べない部分を肥料として使うことやトウモロコシの栽培方法などを。そして10月、アメリカ到着1周年を記念して、ピルグリムの生存者53人が90人のインディアンを招き、3日もの間収穫に感謝して祝いあった。



アメリカ人は小さいころからこのお話を聞いて感謝祭を祝います。大抵は食事の前にテーブルの周りに集まった家族が一人一人何に感謝をするかを言います。例えば、家族への感謝、仕事への感謝、健康への感謝。あなたはなにを感謝しますか？考えてみれば周りには感謝すべきものばかりではありませんか！ピルグリムたちは厳しい時代に大変な試練を乗り越えました。当時恐れられた病気は、現在は薬で簡単に治ります。冬を乗り越えるために一年中狩りをして野菜の保存に苦心したけれど、今はスーパーで買った新鮮な肉と野菜を冷蔵庫で簡単に保存できるようになりました。

自分のことを愛してくれる家族や健康、趣味、忙しい中でもちょっと静まって、自分の周りの感謝すべきものに思いを巡らすのはいかがでしょうか。では、また今度。 —ジェフ

塾のコンビニ！英語塾 阿賀野市教育委員会 学校教育課
Tel 0250-62-2790 e-mail gakkokoiku@city.agano.niigata.jp

